

「もりぐらし」の 取り組み

東急リゾートタウン蓼科は、1978年に初めて別荘地を分譲して以来、長きにわたって自然との共生を続けてきました。

2017年には、森をまもり、森とともに暮らす地域循環型のタウンを目指し「もりぐらし」プロジェクトがスタートしました。間伐や植樹で森を健全化させるだけでなく、間伐の過程で得られた材は化学燃料に代わるバイオマスエネルギーや、タウン内で販売するオリジナル商品に活用しています。

自然を舞台に、地域とのつながりを育みながら、人と地球の在り方を考え続ける。「もりぐらし」が実践するのは、そんな未来への取り組みです。



※「もりぐらし®」は、蓼科から生まれた、東急リゾート&ステイ株式会社のSDGsブランドです。

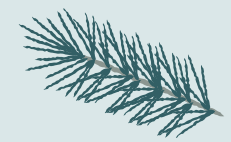


「もりぐらし」の
取り組み



葉

leaf



主な加工： 食品

葉のみを選別し、乾燥後、お茶工場にて焙煎・ブレンド加工します。

商品： お茶



枝

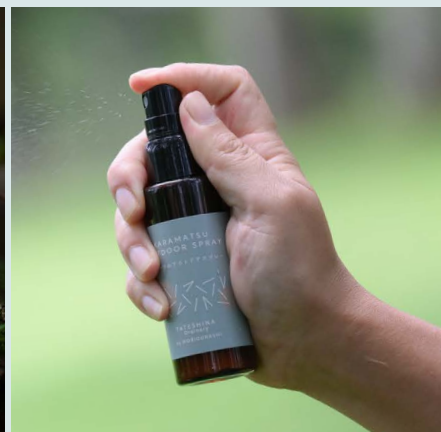
branch



主な加工： 蒸留

枝を粉碎後、水蒸気蒸留し精油を抽出します。精油いわゆる天然香料をフレグランス商品に展開します。将来的にはタウン内のアメニティへの活用も。

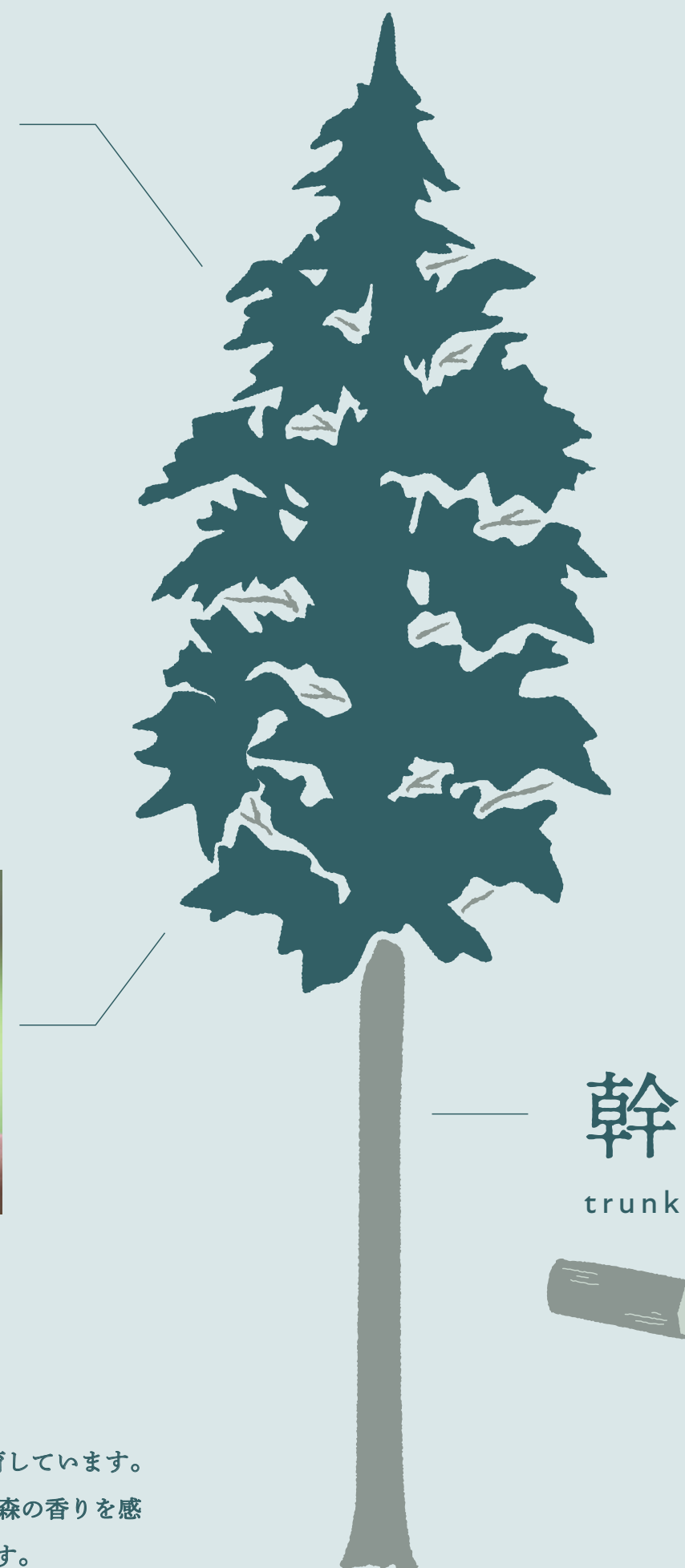
商品： アロマキャンドル / フォレストインセンス
アウトドアスプレー



間伐材を活用したオリジナル商品

東急リゾートタウン蓼科の敷地内には、針葉樹である「カラマツ」が多く生育しています。蓼科の森を未来へ繋ぐために間伐されたカラマツの活用を目的とし、八ヶ岳の森の香りを感じるオリジナルプロダクトを製作。枝・葉・幹と、余すところなく活用しています。

HOW TO USE TREE



地域のみなさと

タグを組んだ商品展開

もりぐらしオリジナル商品の一つである『カラマツのサシェ』は、材料に長野県・下諏訪町の「荒木縫製」の製造家庭で出る生地の手端材を使用し、長野県諏訪市にある障害福祉サービス事業所「NPO 法人 ふおれすと『森の工房あかね舎』」「NPO 法人 やまびこ会『ひまわり作業所』」のメンバーが一点一点制作しています。このように東急リゾートタウン蓼科では、間伐材を有効活動するだけでなく、地域企業と連携を図りながらSDGsを意識した商品を生み出しています。



主な加工： 木工・チップング

- | | |
|-------|--|
| 木工加工 | 伐採後、製材し、木工房で加工します。ウッドブロックをディフューザーに展開。その他にも家具や食器類、オブジェなど様々な活用が考えられます。 |
| チップング | 伐採後、ウッドチップ化し、木の本来の香りを生かし、サシェに展開。その他にもボイラーでタウン内のエネルギーに活用しています。 |

商品： サシェ / ウッドディフューザー / 経木短冊